

# こんちゅう館 News

みへんな主役!! 虫の館のスターたち ⑤

## オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*

オニヤンマ科 トンボ目



羽化直後の雌

亜終齢幼虫

誰もが名前を知っている、日本最大のトンボです。夏になると森林公園への上り道などで姿がみられ、黒と黄色の縞模様の成虫が山道を悠然と飛ぶ姿は存在感があります。

幼虫(ヤゴ)も終齢になると体長約45mmに達し、見ごたえがありますが、展示する上での悩みは、すぐに水底の砂にもぐってしまい姿が見えなくなることです。よく観察すると、複眼や頭の一部は砂の上に出して獲物を待ちかまえているのがわかるのですが、でこぼこな褐色の体、また、体毛に砂や泥の粒をまとうことで、みごとに周囲の環境にとけこんでいて、なかなか見つけられません。幼虫は山地の小川にすみ、水底の泥の中にひそんでいます。成長は遅く、成虫になるまで5年くらいかかります。公園内にも生息地があるのですが、豪雨などで幼虫が流されてしまうと、たとえ環境が回復しても、同じ場所で再び大型の幼虫が採集できるようになるには何年も待つこととなります。(松尾)

### 企画展示のご紹介

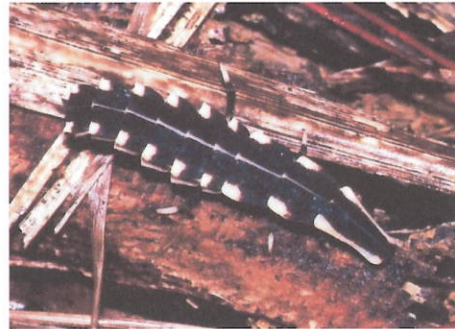
## ヒョウモンモドキの成虫展示

- 期間: 6月5日(土)~6月27日(日)
- 会場: こんちゅう館内がくしゅう室・屋外
- 内容: 広島県にのみ生き残った絶滅危惧種「ヒョウモンモドキ」。成虫の吸蜜・産卵の様子をご覧ください。



## 南の島のホタル

- 期間: 6月12日(土)~6月27日(日)
- 会場: こんちゅう館内多目的ホール
- 内容: 沖縄県西表島産の陸生ホタル「ヤエヤママドボタル」の、発光する幼虫を展示します。



## 世界のカブト・クワガタ 2021

- 期間: 7月17日(土)~8月31日(火)
- 会場: こんちゅう館内多目的ホール
- 内容: ヘラクレスオオカブトムシ・ギラファノコギリクワガタをはじめとする人気者たちが、世界中からやってきます。



ヘラクレスオオカブトムシ

ニジイロクワガタ

ギラファノコギリクワガタ

アフリカエオンゾウカブトムシ

### イベント案内

- ★ 6月 ① 大人のための昆虫講座「ヒョウモンモドキ」: 13日(日) 13:30~14:30
- ② 虫さがし「水辺の生きもの」: 20日(日) 10:30~11:30
- ③ バックヤードガイド「飼育室ツアー」: 26日(土) 13:30~14:30
- ★ 7月 ④ バックヤードガイド「樹木園ツアー」: 3日(土) 13:30~14:30
- ⑤ バックヤードガイド「樹木園ツアー」: 10日(土) 13:30~14:30
- ⑥ 虫講座「カブクワの採り方」: 17日(土) 13:30~14:30
- ★ 8月 ⑦ むしむしサマースクール: 7日(土) 10:00~12:15
- ⑧ むしむしサマースクール: 21日(土) 10:00~12:15

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止・変更などの可能性があります。

※ すべて「事前申し込み制」です。

※ 募集定員数は、①~⑥は25名程度。⑦⑧は3名程度。応募多数の場合は抽選となります。

※ 申し込み締切日等の詳細につきましては、こんちゅう館のホームページをご覧ください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.5 夏号 2021年6月1日

編集/発行 広島市森林公園 こんちゅう館

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地

TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

# リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis similis*

タテハチョウ科 チョウ目



ランタナの花で吸蜜する雌

幼虫

蛹

リュウキュウアサギマダラは、日本では南西諸島に分布するマダラチョウの仲間です。旅をすることで有名なアサギマダラと名前が似ていますが、本種は旅をしません。

当館では本種の幼虫にツルモウリンカというキョウチクトウ科の植物を与えています。ツルモウリンカはつる性の植物で、温度が高いと景気よく伸び、栽培自体は簡単なのですが、カイガラムシが発生しやすいのが玉に傷です。栽培温室では、食草を昆虫に与えるため、農薬を使うことはできません。そこで、ホースから水を勢いよく噴出させ、その水圧でアブラムシをはじき飛ばします。日々怠ることができない重要な作業ですが…けっこうしんどくて時間がかかります。

終齢幼虫は大食漢で、数個体で食草の鉢を半日で丸坊主にします。前蛹や蛹がぶら下がっていてもおかまいなしです。葉が無くなると今度はつる状になった茎の先端をかじり始めます。こんなに食い意地の張った幼虫ですが、ひとたび成虫になってしまうと、大空を優雅に舞うのですから面白いものです。(佐藤)

夏、トンボ池は最もにぎやかな季節を迎えます。水辺の植物は青々と茂り、ミクリやコウホネが盛んに花を咲かせます。また、岸辺では樹木からモリアオガエルの卵がぶら下がっているのを見かけるようになります。モリアオガエルは森林にすむ緑色のカエルで、泡に包まれた卵を水上の木の枝へ産み付けます。卵は泡の中で乾燥や外敵から守られながら発生し、オタマジャクシになると直下の水面へ落ちていきます。それを合図に、オタマジャクシを食べる様々な水生昆虫たちが集まってきます。

一方、この時期から様々な水草が繁茂し、徐々に水面を覆い尽くしていきます。夏は、草取りのために職員が大汗をかく季節でもあるのです。(逸見)



クロスジギンヤンマ雄の羽化

植物が生い茂る夏のトンボ池

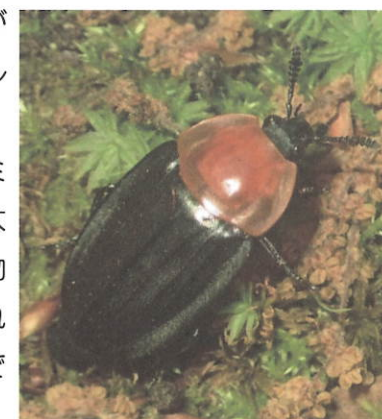
ナガエミクリの花と実

モリアオガエルの卵

## こんちゅう館の季節の虫

ベッコウヒラタシテムシ *Eusilph brunneicollis*

オレンジ色の胸部が美しく、見た目はおしゃれですが…。実は、成虫・幼虫ともにミミズなど動物の死肉が大好物！人知れず、動物の遺体を処理してくれる、森の埋葬人なのです。(逸見)



## パピヨンドームの花

ブーゲンビリア *Bougainvillea* cv.

南国を想わせる優雅な植物ですが、鋭いトゲがあります。これは花芽が変化したものです。刺さると痛いのですが、もともと花の芽だと思えば、気にならないものです。(佐藤)

